

4. 令和4年度標準採血法検討委員会報告

Committee Report on the Standard Procedure for the Blood Collection in 2022

渡邊 卓 (JCCLS 標準採血法検討委員会委員長、杏林大学学長)

Takashi Watanabe (Chairperson of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Dean of Kyorin University)

大西 宏明 (JCCLS 標準採血法検討委員会副委員長、杏林大学医学部教授)

Hiroaki Ohnishi (Vice-Chairperson of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Professor, Kyorin University School of Medicine)

委員 (順序不同、敬称略)

渡邊 卓、大西宏明、川合陽子、雨宮みち、
益田泰蔵、東克巳、竹岡真梨、高森美和子、
竹岡真梨、渡辺晴明、駒井信子

令和4年3月28日に標準採血法検討委員会を開催した。

1) 電子版 (オンライン版) の導入について

NTT EDX 事業の概要の説明があり、本事業を標準採血法ガイドラインの教育機関向けの販売に用いることの提案があった。教育機関については、電子化の導入によりさらなる普及が期待できることから、今後運用に向けて検討を行うこととした。一方、医療従事者に対しては小規模での販売が主になることから、教育機関向けとは切り分けて、別途検討することとなった。

2) 標準採血法ガイドラインの今後の方向性

2019年3月に現行のガイドライン (GP4-A3) が発行されて約4年が経過したが、この間重大な問題や不具合は報告されておらず、ガイドラインの内容が受け入れられているものと思われる。

一方、タスクシフトにより臨床検査技師にも静脈路確保の手技が必要となりつつあり、静脈路確保についてもガイドラインに追加することの是非について検討された。現時点では、静脈路確保の業務を行っているのは看護師や医師が圧倒的多数であることを踏まえ、もう少し臨床検査技師の需要を確認したうえで、静脈路確保に関して本ガイドラインに追加するかどうか検討することとなった。